

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		きらめき守谷夢彩都フェスタ支援事業		担当課
総合計画	政策	活力にあふれるまち		計画期間
	施策	集客資源の創出と充実		種別
	基本事業	特色あるイベントの開催		市民協働
予算科目コード		01-070102-09 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 毎年9月下旬の2日間、守谷駅西口駅前広場を会場として実行委員会により開催するイベントを、負担金により支援する。 会場では、市内中学校の吹奏楽演奏、和太鼓、よさこいソーラン踊りなどのステージ、お楽しみ抽選会等の催しのほか、地元特産物や地域産業を支える企業・組合等の出展ブース、ビアステーションなど多彩なイベントを実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
地域産業を支える商工業者や市民活動のPRの場として、実行委員会が開催する守谷市商工まつり～きらめき守谷夢彩都フェスタ～を支援することにより、地域の活性化を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域資源やイベントを活用して、市内における賑わいを創出する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
今年度は台風接近の影響もあり、イベント2日目は開催時間を繰上げて実施をした。来場者数は、今までにない平均数を下回る28,700人であった。 今回、イベントの態度決定等は、実行委員会で迅速に対応し、無事に開催したが、荒天時の対応について、事前に協議が必要である。	平成30年度 11月 今年度の反省、課題整理 3月 商工会担当者と打合せ、対応策を検討 平成31年度 6月 第1回実行委員会 対応策の承認 8月 第2回実行委員会 催事の配置、役割分担について協議 9月 イベント開催
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
荒天時の対応について、実行委員会で協議する。	

次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	負担金による支援事業であるため、現状維持とする。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
商工業者や市民活動発表PRの場として開催しているイベントであり、負担金による支援事業として支援する。	負担金の交付により、事業支援を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
来場者数（人）	87,000.00	70,700.00	28,700.00	71,000.00	75,000.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	2日間の開催であったが、台風接近による荒天のため、参加者が減少した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	地域産業を支える商工業者や市民活動の発表PRの場として開催しているイベントであるため、継続して支援する。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	2,699	2,699	2,699	2,699	2,699
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	2,699	2,699	0	0
	一般財源	2,699	0	0	2,699	2,699
正職員人工数（時間数）		474.00	421.00	396.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,943	1,726	1,653	0	0
トータルコスト		4,642	4,425	4,352	2,699	2,699

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		MOCOフェスタ支援事業		担当課	経済課
総合計画	政策	活力にあふれるまち		計画期間	平成26年度～
	施策	集客資源の創出と充実		種別	任意の事務
	基本事業	特色あるイベントの開催		市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-070102-11 補助	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 毎年5月中旬の2日間に守谷駅西口駅前広場を会場とし、企業とボランティア主体の実行委員会が開催するイベントを負担金により支援する。 市内中学校の吹奏楽演奏、踊りなどのステージ、茨城県内の自治体や守谷市内企業・市民団体のPR、販売等の出店ブースなどのイベントを実施する。
東日本大震災を契機に、「元気茨城を発信しよう」をテーマに市内の企業、市民が実行委員会を組織して平成24年から開始された。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
企業と市民の交流の場として、実行委員会が開催するMOCOフェスタを支援することにより、企業、市民による守谷からの元気茨城の発信、PR、復興支援を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域資源やイベントを活用して、市内における賑わいを創出する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
引き続き，実行委員会への自主財源による運営への移行が課題である。	平成31年1月～ 運営方法の見直し協議 実行委員会
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
運営方法，実施内容の見直しについて協議する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	市関連費用ブース等に対しての負担金による支援事業であるため，現状維持とする。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
企業と市民の交流の場として、開催しているイベントであるため、継続して支援する。	負担金の交付により、事業支援を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
来場者数（人）	19,940.00	22,200.00	23,900.00	24,000.00	23,500.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	一時雨も降ったが、来場者はほぼ横ばいであった。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	企業と市民の交流の場として、開催しているイベントであるため、継続して支援する。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	800	500	500	500	500
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	500	500	0	0
	一般財源	800	0	0	500	500
正職員人工数（時間数）		646.00	504.00	413.00	0.00	0.00
正職員人件費		2,649	2,066	1,724	0	0
トータルコスト		3,449	2,566	2,224	500	500

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		守谷ハーフマラソン開催補助事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	活力にあふれるまち		計画期間	昭和59年度～
	施策	集客資源の創出と充実		種別	任意の事務
	基本事業	特色あるイベントの開催		市民協働	補助事業
予算科目コード	01-100501-08 単独		根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
マラソン大会を通じて新旧住民の親睦を図り、守谷市の知名度を高めるため、昭和59年から実施している。	毎年2月上旬に開催しており、ハーフマラソン・5km・3km・2kmの男女年代別の種目を設定し健脚を競い合う。 ハーフマラソンについては、日本陸上競技連盟公認コースで茨城陸上競技協会の公認大会となっており、大会は守谷市体育協会が主催し、市からの補助金のほか、参加費及び企業協賛等により実施している。 大会運営の係員は約800名で、体育協会会員や市民ボランティア等の協力を得ている。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
守谷ハーフマラソンに多くの人に参加してもらうことで、幅広い年齢層の人々の健康増進をもたらすとともに、全国からの参加者に守谷市のすばらしさをPRする。 また、大会運営に多くのボランティアが参加しており、市民相互の交流を深める機会になっている。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域資源やイベントを活用して、市内における賑わいの創出に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
- 大会の募集がここ数年で早くなっているために、参加者への周知を早める必要がある。 - 他の大会を参考にしながら、ランナーが参加しやすい環境とは何かを見いだす必要がある。 - 大会を支えるボランティアを確保する必要がある。	6月 大会概要決定 10月 募集開始 1月 事前送付 2月 事業実施 3月 事業報告
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
- 大会ホームページの活用と、前回参加者へのダイレクトメールなどにより集客の確保を図る。 - 市民優先申込を窓口とインターネットランナーの利便性を図り、当日の受付処理を廃止することにより、ランナーが時間に余裕をもって参加することができる。 - ホームページや広報を活用し、大会のボランティアを募集する。そのボランティアには今後も大会の運営に関わっていただけるよう、常にスポーツ関連事業に関し発信する必要がある。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	前大会から高校生以上が4500円、小中学生が2,500円となった。 大会の運営としては、参加者負担で賄うのが筋ではあるが、ハーフマラソンを中心とした種目では限界の参加費になっており、これ以上の参加費の値上げは厳しい。また、協賛企業における協賛金や協賛品が年々減少傾向にある。さらに、参加賞や大会で使用する消耗品類の物価の高騰等もコスト増加の方向であるため、コストパフォーマンスを検討しつつ、現状を維持する。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
- 参加費を一律500円上げ（高校生以上4,500円、小・中学生2,500円）、ナンバーカード、参加賞（Tシャツ）を含めすべてを事前送付にすることで参加者の利便性を図るとともに、当日の受付事務量を削減した。 - 引き続き、大会専用ホームページで情報発信に努めた。	参加費を前年同様（高校生以上4,500円、小・中学生2,500円）とし、ナンバーカード、参加賞（Tシャツ・スポーツタオル）を事前送付した。 従来窓口のみだった「市民優先受付」をインターネット受付と併用したことにより、窓口受付の事務量の削減につながった。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
参加申込者数のうち完走者数（人）	5,160.00	4,727.00	4,995.00	5,000.00	5,300.00
市内参加申込者数のうち完走者数（人）	1,821.00	1,669.00	1,723.00	2,000.00	2,000.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	ハーフマラソンの部の制限時間を10分延長することで、参加しやすい環境を作った。そのため、ハーフマラソンの部の完走率が前回の93.7%から95.7%に向上した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	今後も参加者及び運営ボランティアの意見をもとに、参加者の利便性向上、両者の負担軽減を目指して取り組んでいく必要がある。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	2,000	2,000	3,000	3,000	5,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	2,000	3,000	0	0
	一般財源	2,000	0	0	3,000	5,000
正職員人工数（時間数）		2,468.00	1,941.00	2,154.00	0.00	0.00
正職員人件費		10,119	7,958	8,993	0	0
トータルコスト		12,119	9,958	11,993	3,000	5,000